

# エンパワメント型アートセラピー実践者の セルフアセスメントにおける ▶ ルーブリック導入の効果

2022年11月26日

小村みち（大阪公立大学）＊  
石原みどり（ATASラボラトリー）  
兼子 一（神戸医療未来大学）  
林 章浩（静岡理工科大学）

# 発表概要

<i>Chapter</i>	<i>Contents</i>
1. 本研究の背景と意義	<ul style="list-style-type: none"><li>• エンパワメント型アーツセラピー(EAT)の概要</li><li>• 解決すべき課題</li><li>• 研究のモチベーション</li></ul>
2. ルーブリック導入の予備調査事例	<ul style="list-style-type: none"><li>• 予備調査の事例報告</li><li>• 予備調査の結果</li><li>• ルーブリック導入の効果</li></ul>
3. 今後の課題	<ul style="list-style-type: none"><li>• 実装化および検証に向けて</li><li>• 中長期的課題</li></ul>

# EATの概要—PATとEAT

- ▶ **PAT** (Psychopathological Arts Therapy, 精神病理学的アートセラピー)
  - 臨床的, 治療的なアートセラピー (芸術療法)
- ▶ **EAT** (Empowerment Arts Therapy, エンパワメント型アートセラピー)
  - 多様な市井のアートセラピーを説明するための学術的な概念

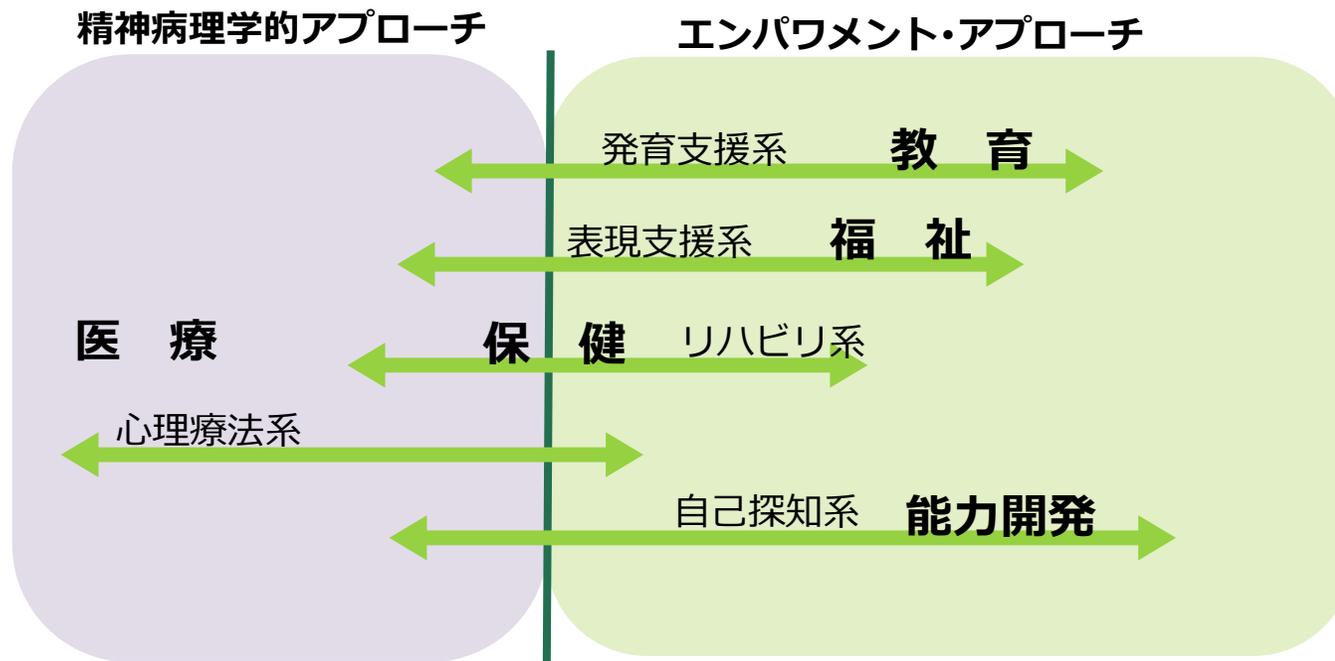


図1 日本におけるアートセラピーの活動領域および5系統の相互関係 (2014)

# EAT活動評価シート

I 準備・態勢			
1 アーツセラピーの知識・セッションの技術		自己評点	平均値
①	アート（表現すること）が有するセラピー効果、セラピー機能について理解し、説明できる。	1・2・3・4	①～④の 合計点
②	目的・ねらいに応じたアーツセラピーおよびアートの知識・技術を有している。	1・2・3・4	
③	アーツセラピーの歴史や、自分の専門領域以外のアーツセラピーの技法・特徴について知っている。	1・2・3・4	平均値
④	自分の活動において必要なレベルの心理療法や精神療法、心理カウンセリングに関する知識・技術がある。	1・2・3・4	
2 自己研鑽・自己理解			
⑤	活動に必要な専門的あるいは関連する知識・技術の向上を図っている。	1・2・3・4	⑤～⑦の 合計点
⑥	自己評価を行っている。	1・2・3・4	
⑦	自己の本質や性向を理解・把握し、自分が抱える心理的な問題については一定の整理や解決がついている。	1・2・3・4	平均値
II 実践			
3 ワーク・セッションの展開			
⑧	自己の活動の目的・ねらい、対象者（相手・クライアント）が明確である。	1・2・3・4	⑧～⑩の 合計点
⑨	対象者の状況・ニーズに応じて目標を設定し、ワークやセッションを組み立てることができる。	1・2・3・4	
⑩	対象者の様子や状態に対し臨機応変にワークやセッションを進めることができる（必要な場合は変更や中断もする）。	1・2・3・4	平均値
⑪	ワークやセッションの効果について計り、フィードバックしている。	1・2・3・4	
4 対象者へのアプローチ			
⑫	対象者との心理的距離を考慮し、適切な関係を構築することができる。	1・2・3・4	⑫～⑭の 合計点
⑬	対象者を多角的に理解するよう努めている。	1・2・3・4	
⑭	対象者が置かれている家庭環境、社会的環境、それに関係する制度・組織・サービスなどについての情報を得るようにしている。	1・2・3・4	平均値

5 安全対策			
⑮	対象者の個人情報や発言内容に関して守秘義務を守っている。	1・2・3・4	⑮～⑯の 合計点
⑯	グループでのワークやセッションにおいて、参加者の個人情報や発言内容に関して、守秘義務を守ってもらうよう確認している。	1・2・3・4	
⑰	対象者の心理状態や心理的变化に対し、必要があれば個別にフォローしている。	1・2・3・4	平均値
6 情報・ネットワーク			
⑱	スーパーヴァイザーなど指導者あるいは相談できる人がいる。	1・2・3・4	⑱～㉑の 合計点
⑲	対象者の状態やケースの状況に応じて適切な専門家や専門機関につなぐことができる。	1・2・3・4	
㉑	アーツセラピーや自身の活動に関連する情報や知識を得るためのネットワークを築いている。	1・2・3・4	平均値
III 運営方針			
7 経営・マネジメント			
㉒	活動計画・収支計画を立て、継続的に活動を行っている。または、それを目指している。	1・2・3・4	㉒～㉔の 合計点
㉓	活動内容に見合う対価・報酬を受け取っている。	1・2・3・4	
㉔	活動に係る経費は、活動の対価・報酬や助成金等で賄っており、持ち出しに頼っていない。	1・2・3・4	平均値
IV 基本理念・ミッション			
8 基本理念・ミッション→アーツセラピーの本質・理念の追求			
㉕	活動の基本理念や目指す理想が明確になっており、他者に説明できる。	1・2・3・4	㉕～㉖の 合計点
㉖	自分のアーツセラピー活動の特徴が明確になっており、他者に説明できる。	1・2・3・4	
㉗	アート（表現すること）の本質を追究する姿勢を持っている。	1・2・3・4	平均値

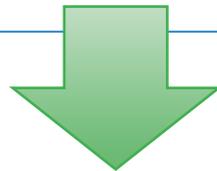
# EATルールブック

	1	2	3	4
知識	知識は部分的、断片的であり、体系的に学んだことがない。	ひとつおりの知識を学んでいる。	自分の主たる実践領域に関する十分な知識があり、それらについて他者に説明することができる。	自分の実践領域と関連する諸領域に精通しており、アーツセラピー全般に関しても体系的な知識を持ち、それらを他者に説明することができる。
スキル	実践経験がほとんどない、もしくはごく少ない。	習得した方法に基づいて、ひとつおりEATを実践することができる。	習得した方法に基づいて、安全で効果的にEATを実践することができる。	習得した方法だけでなく、独自の方法を加味したり開発しながら、安全で効果的なEATを実践することができる。クライアントの状況に合わせて、自在に内容をカスタマイズすることができる。
心理的安全性	特段の安全対策を講じていない。実践の中で困ったことが起きることを想定していない。困った事態が起こった時には全く対応できない。	自分自身の対応力を越える事態に対して、少なくともそれを認識し、何らかの対応を取ることができる。	心理的安全性確保の必要性和重要性を認識しており、そのための対策を講じ、対応することができる。	心理的安全性の確保ができており、トラブル時には的確に対応できる。自分自身の対応力を越える場合の見極めが的確にでき、その場合は関係機関や他の専門家に繋ぐなどの適切な対応をすることができる。
自己理解	自分自身の内面について掘り下げて考えたことが無い。自分自身の心理的問題が解決していない、あるいはそれを自覚していない。	自分自身の内面について、ある程度の洞察ができています。自己の心理的な問題を自覚しており、その解決に向けて具体的な取り組みを行っている。	自己の本質や性向を理解し、抱えている心理的問題については一定の解決がついている。	自己の本質や性向を十分に理解し、自己の心理的な問題を克服している。教育分析やスーパービジョン等を定期的に受けている。
協力・連携	困った時などに相談できる相手やネットワークがない。情報収集のための手段を持っていない。(あるいは、仕方が分からない。)	信頼できる相談相手やネットワークを構築しようと模索している。必要と感じた場合に情報収集を行っている。	信頼できる相談相手やネットワークがある。継続的に情報収集を行っている。	同業および関連の他職種の人々との専門的なネットワークがある。学会等に所属し、定期的に研究発表や事例報告を行っている。
経営・マネジメント	活動の継続性や、それを支える経営的な問題について考えたことがない。	継続的な活動をめざして努力や工夫をしている。	有償無償を問わず、継続的に活動している。	継続的な活動を実現できており、活動を拡充する見通しもある。
基本理念・ミッション	基本的な理念やミッションが確立していない。それについて考えたことがない。	自分なりの理念やミッションを持っており、ある程度は言語化できている。	理念やミッションが確立しており、他者に明快に説明することができる。	確固とした理念やミッションを持ち、明快な言葉で言語化されている。他者に活動の目的や理想を伝えることができる。

# 研究のモチベーション

## これまでの研究成果

1. 先行研究の成果に基づくEATの構成要件をふまえて、EAT活動評価シートを作成
2. EAT実践者のケイパビリティ向上のための具体的方向性を明確にするため、EATルーブリックを作成



両者の併用によるEAT実践者のケイパビリティ向上の効果検証のための予備調査

# 予備調査の目的・概要

## ▶ 予備調査の目的

- ① EAT活動評価シートとEATルーブリックの効果的な併用方法を導出すること。
- ② EAT実践者が実際に使用して感じたメリット、デメリットをふまえ、上の2つのアセスメントツールの改善点を明らかにすること。

## ▶ 予備調査の概要

絵画教室活動の中でEATを実践しているインフォーマントに、2つのセルフアセスメントツールを試用してもらった後、インタビューを行い、フィードバックを受けた。

# インフォーマントについて

## ▶Kさん（東海地方在住）

- 絵画教室主宰（生徒数約110名）
- 個人事業主，50代，女性
- 絵画教室歴約28年（当初ボランティアベースでスタート．個人事業化して7年）
- EAT歴約8年

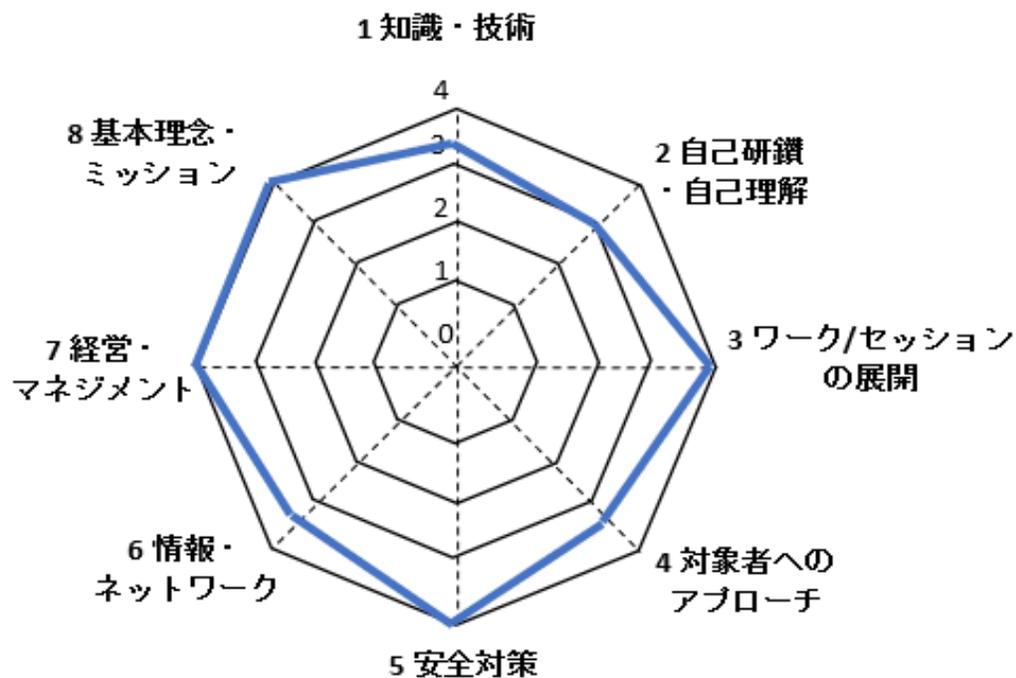
## ▶活動の概略・特徴

- 一般の絵画教室として活動．課題を抱えた子どもに特化しているのではない．
- 絵画教室の活動の中で，課題を抱えた子どもがいれば個別にEATを実施．
- 平常の教室活動の中でも，子どもに対してEAT的な関わり方を心がけている．

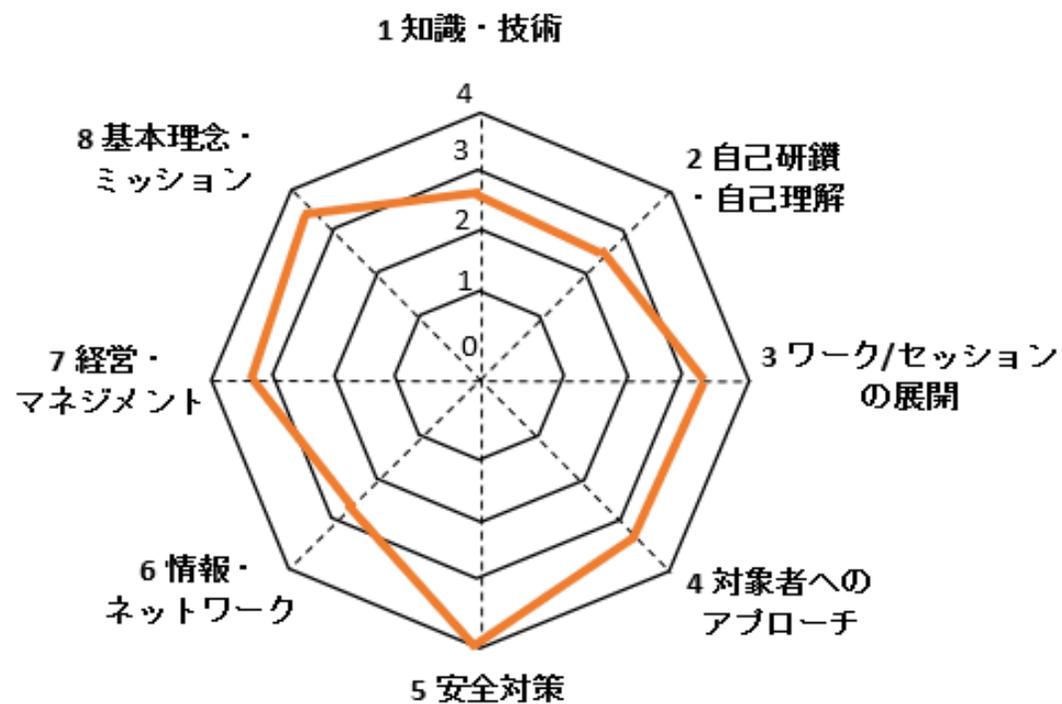
# 調査方法

1. インフォーマントに次の2通りの方法でセルフアセスメントしてもらう。
  - 1回目：EATルーブリックなしに，EAT活動評価シートのみでアセスメント。
  - 2回目：EATルーブリックを参照し，EAT活動評価シートでアセスメント。
2. セルフアセスメントを通して得た気づき，それぞれの方法についてのコメント，ツールを試用した感想などをヒアリング。

# Kさんによるセルフアセスメントの結果



セルフアセスメント1回目  
(EAT活動評価シートのみで評価)



セルフアセスメント2回目  
(EAT活動評価シート&ルーブリックで評価)

# Kさんからのフィードバック

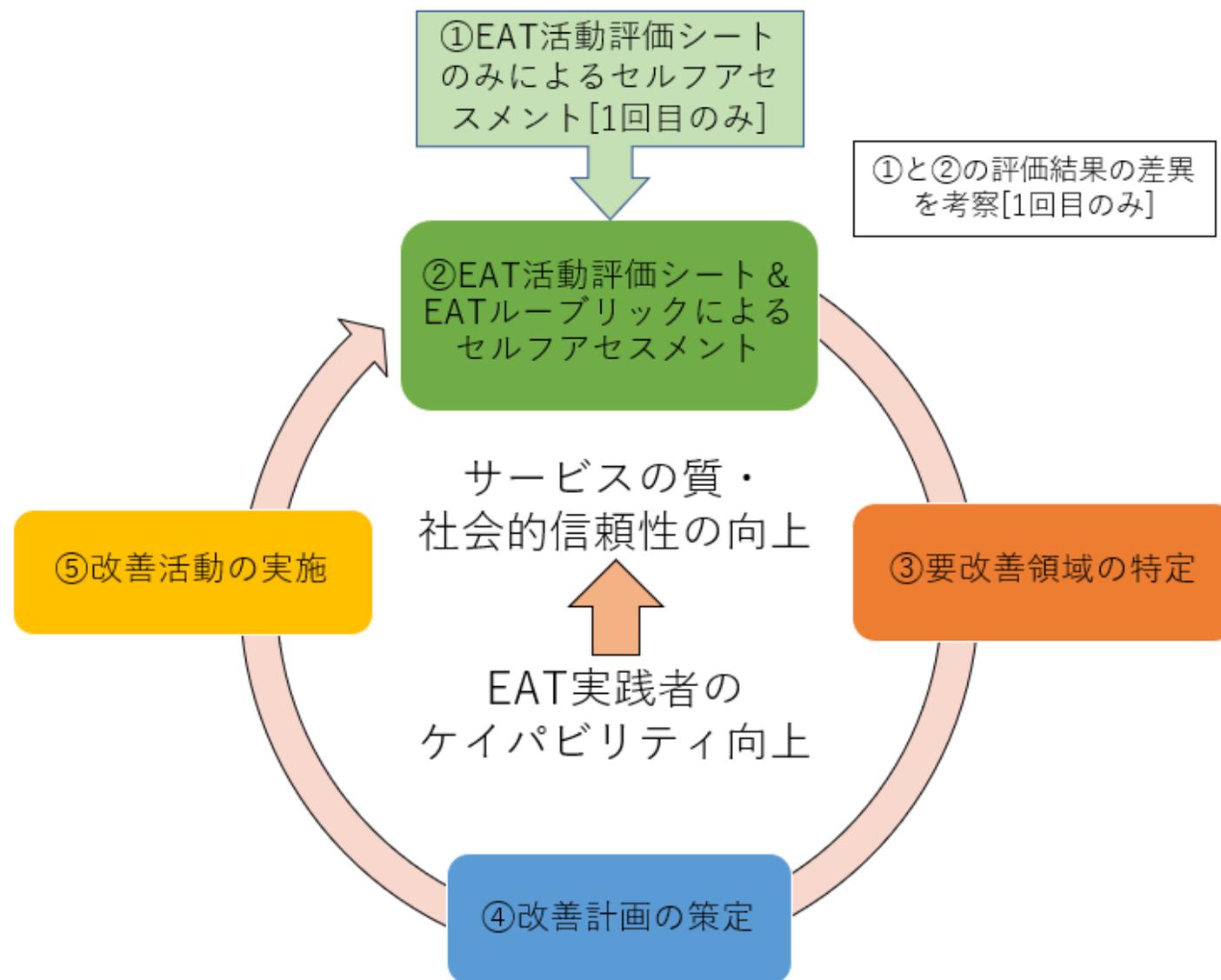
- ▶ EATルーブリック&EAT活動評価シートによる2回目の方法の方が、評価しやすかった。基準があることで、評価の目的や、各レベルに求められるものが明確になる。
- ▶ EAT活動評価シートだけだと、自分の中に軸となる基準がない状態での評価になる。基準があることで、自己評価の観点が変わる。基準を参照するかしないかで、これほど自己評価の結果が違ってくるのが興味深かった。
- ▶ EATルーブリックを使いながらEAT活動評価シートで自己評価することで、自分の立ち位置や活動に対する姿勢が明確になると感じる。
- ▶ 4段階評価は、真ん中（普通）がないので、評価の際よく考える。2と3の評価に関して、どちらに付けるべきか非常によく考えた。
- ▶ 活動歴の浅いEAT実践者は、評価の仕方が分からなかったり、低評価になり自信をなくしてしまったりするかもしれない。セルフアセスメントの目的や方法についてのガイドや説明があった方がよい。

# EATルーブリック導入の効果

- ▶ セルフアセスメントの際の基準としての有効性
  - EAT実践者によるセルフアセスメントの便益の向上
- ▶ EATルーブリックを参照したセルフアセスメントを通じて、EAT実践者としての姿勢や活動の位置づけが明確になる
  - EAT実践者の自己認識の向上

- EAT実践者の自己認識を助ける
- 自分がめざすもの、改善点、強みが明確になる
- ➡セルフアセスメントを繰り返すことで継続的な自己改善が期待できる

# セルフアセスメントによる継続的改善のプロセス



# 今後の課題

- ▶ 複数のインフォーマントによる検証
- ▶ セルフアセスメントツールの導入・活用のためのガイド作成
- ▶ EAT実践者との協働によるツール開発

# References

1. 小村みち, 林章浩, “エンパワメント型アートセラピーの評価手法,”電子情報通信学会, 信学技報, vol. 121, no. 372, SWIM2021-31, pp. 1-7, Feb.2022.
2. 小村みち, 石原みどり, 林章浩, “ループリックを用いたエンパワメント型アートセラピーの改善方式,”電子情報通信学会, 信学技報, vol. 122, no. 167, SWIM2022-13, pp. 16-21, Aug.2022.
3. 兼子一, 石原みどり, “エンパワメント型アートセラピー概説,”神戸医療福祉大学紀要, vol.19, no.1, pp.1-22, Dec.2018.

ご清聴ありがとうございます  
ございました